

福祉避難所の開設訓練

今後は要配慮者本人も参加して実施

問 昨年11月に実施した福祉避難所開設訓練は、要配慮者本人が参加せず代役で行われた。避難の手順等の確認は必要だが、実際の災害時に要配慮者がどう行動すべきかを訓練する必要がある。市の考えを聞く。

答 本市は平成29年に民間施設と福祉避難所設置運営に関する協定を締結し、円滑な避難所開設のため、市職員を中心に手順等の確認を行う訓練をした。その後、協定を締結した法人と意見交換を行い、福祉避難所設置運営マニュアルを作成した。その検証と課題抽出のため法人が避難所開設する想定訓練を行い、施設職員を中心に



避難所開設の手順を確認

災害発生時の課題等を確認した。今後は要配慮者本人が参加し、当事者目線の課題を明らかにする訓練に移行するとともに

ひとり親家庭に生活の安定と自立のための支援

問 ひとり親家庭の生活の安定と自立のためには、きめ細やかな支援が必要と考えるが、本市の取り組みを聞く。

答 本市では、全ての子どもを対象とした総合的な支援を推進しており、ひとり親家庭への支援についても充実を図っている。自立支援員による相談のほか、弁

に、各小学校区で実施している防災訓練への参加も合わせて、要配慮者の安全確保に向けた取り組みを進めていく。

ジェンダー平等の実現 高校生から提言 男女混合名簿に変更

問 昨年11月に開催した高校生議会の中で、SDGsのゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」をテーマに話し合った高校生議員から、学校の名簿を男女混合にしてはどうか。また、男女の区分を問わず制服を自由に選択できるような提言があった。市の見解を問う。

答 明石商業高校では、男女別名簿をこれまで指導上の利便性から使用してきたところである。多様性を尊重する現代社会に対応し、当事者である生徒の内面を重視することが必要であることから、今後は男女混合名簿の使用に向けて取り組んでいく考えだ。また、男女の区分がない制服を含め、本人が自由に制服を選択できることに對しては、教員や生徒など、周囲の理解を得られるための研修等を行い、周知啓発に取り組む必要がある。その方法については、今後、調査・研究していきたい。



11月に開催した高校生議会

あかし市民広場 指定管理者の選定 十分に検討し指定を

総務常任委員会では、議案第65号「あかし市民広場に係る指定管理者の指定のこと」について審査を行いました。市は、平成28年12月の開設時より、同広場の管理運営に指定管理者制度を導入しました。このたび、現指定管理者である明石観光協会の指定期間が今年3月末で満了するため、次の4月1日から3年間の指定管理者に明石コミュニティ創造協会を指定するとの提案がありました。

りました。

委員からは、公募により透明性を担保し広く提案を受け、次期指定管理者の選定理由を客観的に示すべきである。現指定管理者を変更する理由が明確ではない。同広場はさまざまな利用方法があり、人気も高く市民等から予約が難しいという声を多く聞くため、まずは市が利用に係る課題を整理するなど、もう少し時間をかけて議論を重ねることも必要ではないかなど、選定方法を疑問視する意見が相次ぎ、採決の結果、全会一致で否決しました。市からは、議会の理解を得る努力を継続し、今年4月時点で市民に迷惑をかけることがないようにしたいと答弁がありました。

平和の尊さを伝える資料室 文化博物館2階に設置 令和2年7月開設予定

問 平和資料室設置の準備状況と展示内容について聞く。

答 平和の大切さを後世に伝えるため、文化博物館2階の国際交流室を改装し、平和資料室を設置する準備を進めている。開設日は啓発効果等を考慮し、終戦



終戦75周年を機に設置

75周年となる令和2年、本市において最大の空襲があった7月7日を予定している。開設当初には、太平洋戦争全国空襲犠牲者慰霊協会が所蔵するパネルの展示や小学生等を対象とした平和フィードバックを実施する予定だ。なお、本市が受けた空襲の被害や太平洋戦争時の資料などを中心に展示し、来館者が平和について考えるような工夫もしたい。

また、小学3年生は国語の授業で戦争当時の

暮らしについて学習する。文化博物館の常設展示等とともに平和資料室の見学を授業に組み込むことで、戦争の悲惨さや平和の尊さの理解を深めてもらう啓発の機会としたい。

大型化する台風による被害 停電や避難所生活が長期化 水や電源の確保策を検討

問 気候変動により大型化する台風被害などの災害に対する本市の認識と対策について聞く。

答 気候変動による地球環境への影響が懸念される中、豪雨や大型台風などによる風水害が頻発し、被害地域での長期にわたる停電や避

難生活が問題となっている。本市は災害時の停電に備え、ガソリンを燃料とする小型発電機を備蓄している。しかし、燃料の取り扱いに注意が必要で、屋内では使用できないなどの問題があるため、避難所となる小中学校に

蓄電池の配備や太陽光発電設備の設置ができないか調査している状況だ。また、小中学校にはアルファ化米などの食料、毛布や簡易トイレなどを備蓄しているが、今年度末までにはさらに飲料水も配備する予定だ。

今後も停電対策の調査・研究を進めるとともに気候変動問題に対しては、気候非常事態宣言の表明も含め検討したい。

委員会審査

議員ふもやま話

子どもの活字離れが言われて久しい。つい先日、経済協力開発機構が発表した国際的な学力調査で、日本の15歳の読解力の低下が示された。私は子どもの時から本が好きで、小学生の頃は、友達と図書貸出カードの欄が埋まっていくのを競い合っていた。年を重ねた今も相変わらず本好きで、あかし市民図書館には、何冊も予約待ちを入れるほどお世話になっている。本市は、図書館を核とした本のまちづくりを進めており、明石市出身の芥川賞作家である上田岳弘さんが「あかし本のまち大使」に就任されるなど、読書環境が整っている。もし、あまり本を読む機会がないという方がいらっしゃれば、この機会に何か1冊を手にとってみてはいかがでしょうか。